



命を救う。命をつなぐ。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP
近森病院

近森病院からの ホットライン

2025.5 Vol.255

発行：近森病院地域医療連携センター



多職種連携 × CHEMO

近森病院 北館2階には化学療法センター（通称：化療センター）があります。主ががん患者さんに抗がん剤の点滴加療を行う場所です。センター長は外科の田中医師ですが、ここでは、がん薬物療法看護認定看護師の塚本主任をリーダーとして、薬剤師（がん薬物療法専門薬剤師在籍）、看護師、管理栄養士、看護補助者が親身になって患者さんをケア（心も身体も）しています。彼ら、彼女達が主役でとても良いチームです。身内が言うのもなんですがとても素晴らしいチーム医療です。今回は多くの写真で紹介します（百聞は一見に如かず）。簡単に言うと各スタッフがじっくり患者さんと接することで、診察室では言えない様々なことを患者さんから伺い（点滴は長い人で3～6時間は掛かります）、それぞれの問題点をそれぞれの専門家に引き継いで、より良い医療を行うようにしています。

がん薬物療法



- 痩せてきた、ご飯の量が減ったと聞けば → 管理栄養士に連絡して栄養指導を
 - 歯の具合が悪いと聞けば → 歯科の小野医師へ
 - 運動量が減ったと聞けば → 理学療法士へ（運動すると予後がいいです）
 - 皮膚の具合が悪いと聞けば → 皮膚科の高田医師へ
 - 心が折れそうだと聞けば、緩和ケアの医師に連絡（宮沢賢治の雨にも負けずのリズムで）
 - おっと 血糖値が高いとなれば、私、浅羽が呼ばれます。
- その他、患者さんに朝鮮人参の入った漢方薬が必要ななどスタッフが判断すれば、主治医に連絡して処方してもらい、患者さんの元気が続くようにしています。

「患者さんが悪くなる前に手をうつ」

目立たない地味な活動ですが、とても大切なことです。今回、皆様に知って頂きたくホットラインに投稿しました。活動を写真でご覧ください。以上、プレゼンターは糖尿病・内分泌内科の浅羽でした。



患者紹介 WEB 予約システム ぜひご活用ください。
お問合せは 地域医療連携センターへ 088-822-5231（代）



ご利用ガイドは
こちらから



該当の診療科にご紹介ください

大腸癌、胃癌、膀胱癌、胆道癌、肺癌、乳癌、尿路上皮癌
前立腺癌、悪性リンパ腫、血液腫瘍、悪性黒色腫

関節リウマチ、ベーチェット病、クローン氏病、
潰瘍性大腸炎、多発血管炎肉芽腫症

がん薬物治療を受ける患者さんやそのご家族が、安心・安全・
確実に治療が受けられるよう投与管理や副作用マネジメントを
行い、QOLを損なうことなく治療と日常生活が両立できるよう
支援を行います。また告知の時期から継続的に関わり、患者さ
んが納得して治療方針の選択ができ、病気と
向き合えるよう意思決定支援を
行います。

患者さんに
寄り添ったケア



看

×

薬

日常を
変えないように



栄



食事・栄養面から サポート

化学療法にともなう様々な症状は、食事摂取量の低下につながりやすく、体重減少や栄養障害が進行する場合があります。私たち管理栄養士は、病状や出現する症状を考慮し、患者さんの生活状況に応じた栄養指導を行います。また医師をはじめ他職種と連携を取り、よりよい栄養サポートにつなげることを目指しています。

多職種で
支援しています。

プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM) を導入し、「下痢」や「抗 EGFR 抗体薬による皮膚障害」、「B 型肝炎再活性化早期発見」などのアルゴリズムに従って有害事象（副作用）の軽減・予防のために、薬剤師から主治医に積極的にアプローチしています。

また化学療法センター内に薬物療法支援室が併設されている特徴をいかし、薬剤師による細やかな患者さん面談や医師・看護師他との積極的なディスカッションを行っています。

薬剤師から、他科（歯科、皮膚科、がんサポート外来など）受診提案や、管理栄養士、歯科衛生士など他職種への介入依頼など、チーム医療の円滑化を図っています。さらに、お薬手帳の活用による保険薬局との情報共有によって患者指導や有害事象モニタリングに関する連携を強化しています。